

競技要項

1. 競技方法・競技時間

Division I – A・B 全チーム1回戦総当たりのリーグ戦を行う。

全試合対戦表の左側を仮ホームチームとし本部席から向かって左側のベンチに入る。

試合でのホームチーム・ビジターチームは、試合開始前のバックスにて決定する。

正規 20分×3ピリオド 練習 7分 休憩 12分

Division II～IV 全チーム1回戦総当たりのリーグ戦を行う。(但し、DivisionIVは、この限りではない)

全試合対戦表の左側を仮ホームチームとし本部席から向かって左側のベンチに入る。

試合でのホームチーム・ビジターチームは、試合開始前のバックスにて決定する。

正規 15分×3ピリオド 練習7分 休憩 1, 2ピリオド間5分 2, 3ピリオド間12分

※ 全ての Division のリーグ戦において第3ピリオド終了時同点の場合、

両チーム3名ずつのペナルティ・ショット・シュートアウト(以下「PSS」という)により勝敗を決定する。

さらに同点の場合はサドンデス方式による両チーム1名ずつのPSSにより勝敗を決定する。

※ランニングタイムを全ての Division において以下の通り適用する。

10点差以上の得点差がついた時点で次のフェイスオフ以降のゲームタイムはランニングタイムとする。

- ① 点差が縮まった場合でも継続する。
- ② 次の場合は時計を止める。
 - a) 得点時。(レフェリーが本部席オフィシャルに得点を報告した後、直ちにスタートさせる)
 - b) 反則発生時。(次のフェイスオフでパックをドロップ後、直ちにスタートさせる)
 - c) タイムアウト。「タイムアウト」のアナウンスで停止し、ブザー後、直ちにスタートさせる)
- ③ 反則時間終了時にプレイが止まっていた場合、その選手は次のフェイスオフでパックがドロップされるまでペナルティベンチから出られない。

※ 順位決定は次の通りとする

・ 全ての Division において右図の通り勝ち点を与える

- ① 勝点の多い順
- ② レギュラータイムの勝数の多い順
- ③ 当該校の対戦成績
- ④ 当該校同士の試合での得失点差の大なるもの
- ⑤ 当該校同士の総得点÷総失点の商の大なるもの
- ⑥ 全試合の得失点差の大なるもの
- ⑦ 全試合の総得点÷総失点の商の大なるもの
- ⑧ 2020年ランキング(2019年度リーグ戦最終順位)上位のもの

60	PSS		60
分	(延長)		分
勝	勝	負	負
3	2	1	0

☆ ディビジョン1Aと1Bによる順位決定戦は実施しない。

☆ Division II以下の入替戦は実施しない。(但し、エキジビションマッチとしてディビジョンを超えた試合を実施する場合がある)

☆ 自動昇格・自動降格は実施しない。

2. 競技規則

公益財団法人東京都アイスホッケー連盟の定めるローカルルールを除いては、原則として国際競技規則及び公益財団法人日本アイスホッケー連盟の定めるルールによるものとする。

特に、以下の規則に関しては、怪我防止のため徹底する。

1) プレーヤーはバイザーまたはフルフェイス・マスクの付いたヘルメットを着用しなければならない。

顎紐と顎の間のゆとりは指1本分のみとする。バイザーは鼻が全て覆われるものなければならない。

プレーヤーは試合前の練習中、ベンチ内、ペナルティボックス内にいるときも、ヘルメットを正しく着用していなければならない。

2) グローブ・ヘルメット以外の用具は完全にユニホームの下に着用し、ユニホームはパンツから出して着用すること。

3. 補助規則

1) 連盟未登録選手が出場した場合は、その試合に限り没収試合とし、不戦敗（スコアは0対15）とする。

2) オールメンバー表に記載されていない選手は試合に出場できない。

3) チームのすべてのプレーヤーは、同じ上着、パンツ、ストッキング、ヘルメットを着用しなければならない。

4) プレーヤーはマウスガードを着用しなければならない。

5) 選手の怪我防止の観点から、プレーヤーの用具やユニホームが正しく着用されているかを確認するため、以下の手順を定める。

① 整列時、正しく着用されていないプレーヤーには、直ちに改善することをレフェリーが指示し、チームに警告を与える。改善されなければ当該選手は試合に参加できない。

② 試合開始後、正しく着用していないプレーヤーに対してミスコンダクト・ペナルティを科す。

尚、これはレフェリーの判断によりペナルティを科すものであり、チームからのアピールは一切受け付けない。

6) 練習中については、スーパーバイザーがヘルメットやストッキング等の防具を正しく着用するよう監督し是正させる。

7) 試合の際に役員（監督・コーチ等）のうち1名は必ずベンチ入りする（IDを着用しなければベンチ入りできない）

8) ベンチには、GK 2名・プレーヤー20名の計22名、役員6名まで入れる。

尚、外国籍を有する選手は3名以内とする。

9) タイムアウトは全てのDivisionの全試合で、各チーム各1回使用できる。

10) **オールメンバー表・オフィシャル担当表は当連盟所定の用紙に記載し試合当日のリンク入場時に提出すること。**

11) 試合当日（試合開始時）試合を遂行するのに必要な最低人数（GK 1名とスケーター5名）に満たないチームは、その試合を棄権したものとみなし、不戦敗（スコアは0対15）とする。

新型コロナウイルス感染症の影響による辞退の際も原則として同様に扱う。但し、順位決定において、著しく不利益となるケースが発生した場合には、この限りではない。（例：総得失点の計算は辞退チームを除外するなど）

12) ホーム・ビジター制度は全てのDivisionの全試合において適用する。

13) スティック及び用具の計測は、1試合につき各チームそれぞれ1回ずつ要求できる。

14) **第1・3・5試合において、練習後・ピリオド終了時・試合終了後など、両チームが同一通路を使用して控室に戻る際、出口に近いベンチのチームから先に退場すること。**

この際、レフェリーの指示に従い、両チームが同時にならないようにすること。

スタッフによるベンチと控室の移動は、次の試合のチーム控室となるリンクサイドは通行しないこと。

第2・4試合チームは控室を使用出来ない。指定場所（リンクサイド）にてミーティングまたは待機すること。

15) ベンチドアマンの取り扱い

① 当日の試合に出場しないが、選手登録をされている学生2名以内をベンチドアマンとして置くことが出来る。

この場合、オールメンバー表のスタッフ欄に記載すること。（ただし、役員6名には含まれない）

② ベンチドアマンは、危険防止のため必ずフルフェイス・マスクの付いたヘルメットの着用を義務付ける。

試合前の整列時に、レフェリーがベンチドアマンの用具着用状態を確認し、正しく装備していない場合、その試合のベンチ入りを認めない。この場合、ペナルティ（ベンチマイナー）は科せられない。

- 16) 試合中、ベンチ内での写真撮影は禁止する。コーチングの目的にのみ電子機器の使用を認める。
 - 17) ベンチ入りする学生スタッフ（マネージャー・トレーナー）は危険防止のため必ずフルフェイス・マスクの付いたヘルメットの着用を義務付ける。レフェリーが規定に違反している学生を発見した場合、該当者をベンチから退場させる。ただし、ペナルティ（ベンチマイナー）は科せられない。
 - 18) 第2ピリオド・第3ピリオド開始時は、ファーストセットのみ、氷上に上がる。
 - 19) PSSの先攻・後攻の選択権は、パックスにおいて決定する。
 - 20) 申請した登録と試合当日の背番号に変更がある際は、オールメンバー表の提出時、競技役員に報告すること。
 - 21) ユニホームの名前を隠す際は、同系色の布を縫い付けること。（テープ使用は不可）
 - 22) ユニホームは同系色同志の対戦とならないよう、事前に対戦チーム間で話し合いを行うこと。
- 基本は、ホームが色系をビジターが白系のユニホームを着用。

4. 試合中の傷害

試合中に傷害を負った選手のチームは所定の用紙により公益財団法人東京都アイスホッケー連盟に届ける。尚、試合中に起こった傷害に関して応急処置は行うが、その後は各チーム及び個人の責任とする。観客も同様とする。

5. 注意事項

事前の連絡もなく、代表者会議、オフィシャルクリニック、表彰式、試合、オフィシャル当番を遅刻、欠席、棄権した場合、また連盟規約違反をした場合は、学生事業委員会ならびに審議委員会にて協議し処分を科す。各チーム大会初戦の入場時に、チーム全員（入場する者全て）の「同意書」を提出すること。

競技要項（新型コロナウイルス感染症による追記）

1. 試合時のツバ吐き行為は、いかなる理由があってもゲームミスコンダクト・ペナルティを科す。一旦口に入れた水等を吐き出す行為もツバを吐く行為と同様にみなす。
2. パックスは、ソーシャルディスタンスを保ち行うこと。
3. レフェリーその他競技役員との握手は一切行わない。選手同士も禁止する。
4. ベンチ内において、スタッフ（部長・監督・コーチ・トレーナー）は、飛沫飛散防止のため不織布マスクを着用すること。また補助規則15項及び17項に該当する者は、フルフェイスの中に飛沫飛散防止のための不織布マスクを着用すること。
5. ウォーターボトル、タオルは共有しないこと。

<以下の項目は、JlHF から発出された通達に準ずる（要約文として記載する）>

6. ペナルティアテンダントについて・・・得点時は、選手自らドアの開閉をすること。
7. 試合中のベンチ内選手について・・・交代選手以外は座っていること。（交代選手は交代するときまで座っていること）
8. ベンチ内にて、選手及びスタッフは大声を出さないこと。
上記について、1回目は警告、2回目はミスコンダクト・ペナルティを科す。
9. スタッフはマスクを外さないこと。1回目は警告、2回目はベンチマイナー・ペナルティを科す。
10. 試合中断時のパックの扱いについて・・・中断時にパックに触れないこと。GKはキャッチしたらリンク上に置くこと。
11. ペナルティボックス内は、一切の私語を禁止する。（自チームへの連絡や応援を含む）

その他

- ・施設に入る際は、手指消毒を実施し検温を受けること。
- ・施設内において、氷上・ベンチ内以外は常に不織布マスクを着用すること。
(ピリオド間のトイレ移動・室内外でのアップにおいても着用すること)
- ・指定エリア（着替え場所・トイレ・アップ場所）以外への立ち入りを禁止する。
- ・試合終了後、ベンチ内および控室の清掃を行うこと。(大会期間中以外でも習慣化すること)
- ・施設内において、選手の水分栄養補給以外は基本的に飲食を禁止する。
- ・ゴミはチーム各位で必ず持ち帰ること。(施設内にゴミ箱はありません)
- ・新型コロナ対策として導入した「感染防止ガイドライン」「競技要項」「同意書」等に違反して試合を行ったことが判明した場合、学生事業委員会ならびに審議委員会による協議の上、懲戒処分を科す。

* 今大会は、ピリオド間の移動など全てにおいて試合進行のスピードアップにご協力をお願い致します。

* 新型コロナ対策等の社会情勢により大会期間中であっても内容変更の場合があることをご承知おきください。

<緊急連絡先>

第1 連絡先 大会運営委員長 横川（学生事業委員長）携帯：090-8507-9867

第2 連絡先 運営副委員長 松本（専務理事） 携帯：090-3345-2412